

マレーシア・セベランプライ市との連携事業について

シティネット会員都市であるマレーシア・セベランプライ市からの要請を受け、同市の歴史・自然を活かしたまちづくりに協力する連携事業を開始しました。

この事業では、横浜市が有する『都市デザインに関する知見』や『地域住民の主体的な参加によるまちづくりの経験』を、セベランプライ市と共有し、歴史的建造物を生かした商業地区の活性化を主眼とする都市デザインの策定や公共サイン、ストリートファニチャー（街路備品）の制作に協力します。

※本事業は、JICA草の根技術協力事業として採択されましたので、事業に要する経費は、JICAの資金を活用して実施します。

1 連携事業の概要

(1) 事業名

セベランプライ市の歴史・自然を活かしたまちづくりプロジェクト
～「横浜の都市デザイン」新興国へのノウハウ移転～

(2) 実施期間

平成 27 年 12 月～平成 30 年 12 月

(3) 対象地域

セベランプライ市ブキマタジャン地区

(4) 事業費概算（JICA「草の根技術協力事業」）

3 か年で約 5,400 万円（平成 28 年度 1,812 万円（本市予算））

(5) 実施内容

ア セベランプライ市ブキマタジャン地区の都市デザインの策定
イ 街並み環境整備に向けた附属設備等の制作支援

<主な取り組み>

- ① セベランプライ市職員に対する研修
- ② 横浜市職員や横浜市大の教員及び学生による現地調査
- ③ ブキマタジャン地区の住民参加
- ④ 都市デザイン策定
- ⑤ 公共サインやストリートファニチャーのデザインと見本制作

(6) 実施体制

ア 横浜市（国際局国際連携課、都市整備局都市デザイン室ほか）
イ 横浜市立大学
（国際都市学系まちづくりコース、グローバル都市協力研究センター）
ウ JICA（横浜、マレーシア）
エ 横浜セベランプライまちづくり友好委員会
オ マレーシア・セベランプライ市
カ マレーシア国立科学大学

裏面あり

2 これまでの経緯

- 平成 25 年 10 月 セベランプライ市マイムナ市長来浜、林市長に協力を要請
平成 26 年 10 月 マイムナ市長来浜、横浜の都市デザイン等を視察、今後の協力について意見交換
- 平成 27 年 1 月 横浜市及び横浜市立大学等による現地訪問調査・意見交換
6 月 J I C A 草の根技術協力事業として採択
10 月 マイムナ市長来浜、当事業の推進に向けた 6 者の覚書を締結
- 平成 28 年 1 月 J I C A 草の根技術協力事業として、第 1 回専門家派遣及び現地研修実施
5 月 J I C A 草の根技術協力事業として、第 1 回セベランプライ市職員受入研修実施中



▲ 6 者で覚書を締結



▲ マイムナ市長も参加したブキマタジャン地区住民との意見交換会

3 本事業を実施する意義

- (1) シティネット会員都市であるセベランプライ市の歴史・自然を活かした持続可能なまちづくりを支援する国際貢献
- (2) 両市役所、市民団体・まちづくり専門家・地域住民、2 大学（横浜市立大学、マレーシア国立科学大学）が密接に連携する実施体制による国際貢献モデルの検証
- (3) グローバル人材の育成機会の提供
 - ア 横浜市立大学の学生や若手教員の参画を通じた若い世代の育成支援
 - イ 横浜で活躍する民間の若手まちづくり専門家の育成支援
 - ウ 本市職員のグローバル人材としての育成機会の提供
- (4) 国際協力に対する横浜市民の理解・参加の促進

1 セベランプライ市の概要

(1) 人口

約86万人（2014年）

(2) 面積

738 k m²

(3) 主な産業

港湾、工業

(4) その他

- ・アジア屈指のリゾート地であるペナン島（ペナン市）の対岸に立地し、2本の橋でペナン島と接続
- ・ペナン市とともにペナン州を構成
- ・バンコクとシンガポールを結ぶ国際列車マレー鉄道が停車するバターワースの街などを中心に発展
- ・住民の構成は、マレー系（42%）、中国系（41%）、インド系（7%）など

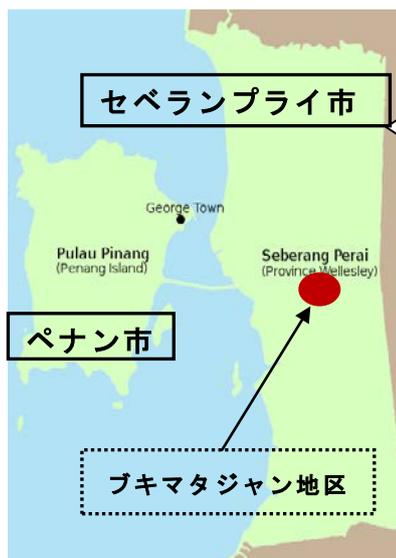
(5) マイムナ・モハンマド・シャリフ市長

<経歴>

- ・英国のウェールズ大学科学技術研究所で都市計画専攻。マレーシア科学大学で修士。
- ・1985年 ペナン市職員
- ・2003～2009年 ペナン市都市計画・開発部長
- ・2011年3月 セベランプライ市長に就任（任命）

<本市との関わり>

- ・80年代後半、技術職員交流を通じて本市技術職員と親交を深める。
- ・セベランプライ市長就任後も4回来浜



▲セベランプライ市庁舎



▲市中心部の高層建築



▲ブキマタジャン地区の街並み

2 その他

(1) JICA草の根技術協力事業

草の根技術協力事業は、日本の NGO、大学、地方自治体および公益法人等の団体による開発途上国の地域住民を対象とした協力活動を、JICA が政府開発援助（ODA）の一環として促進し、助長する事業。JICA が NGO 等からの提案を審査し、ODA による実施が妥当であると認める提案について、その事業の実施を提案団体に契約に基づき委託することにより、共同で実施する。

(2) 1980 年代の本市とペナン市との交流について

- ・横浜市とペナン市とは、昭和 57 年に横浜で開催された第 1 回国連アジア太平洋都市会議にペナン市助役が参加したことから交流開始。
 - ・昭和 60 年にペナン市長が横浜市を訪問した際、横浜市長に職員交流の申し出があり、昭和 61 年から 9 年間、技術職員交流事業を実施。
- ▶▶▶ペナン市のジョージタウン地区は、本市の技術協力をもとに、歴史的建造物を活かした街並み・歩行者空間の整備を行い、平成 20（2008）年、ユネスコの世界文化遺産に登録。



▲ペナン市ジョージタウン地区キャンベルストリート（世界文化遺産エリア）

ショップハウスという 1 階が店舗、2 階が住居となっている伝統建築を活かした街並み。車道と歩道を分離し、車道には駐車スペースを確保している。左手の歩道には、シルバーのストリートファニチャーが設置されている。



▲ジョージタウン世界遺産機構オフィス